

2024年度(2025年3月期)第1四半期決算説明会質疑応答(要旨)

日時：2024年8月7日(水) 16:00-17:00

【1Q業績について】

Q：会社計画に対してどうだったか

A：売上は計画を上回った。営業利益は中国市況の影響を受けたことや、生産抑制による工場収支への影響により計画を下回った

Q：販管費で計画より増減が生じた費用を教えてください

A：DX関連費用は増加しているものの、経費コントロールを行ったことで全体では計画を下回った

Q：中国では計測、医用が市況悪化の影響を受けたが、産業は好調。理由を教えてください

A：計測は医薬・受託分析市場が厳しく推移し、医用は政府の腐敗防止強化策により、契約手続きに遅れが生じている。一方、産業はターボ分子ポンプが半導体製造装置向けに増加したことに加え、アフターサービスも拡大した。また、車載用セラミック製造向けに工業炉が増加したことも好調の要因である

【通期業績予想について】

Q：計測機器の通期業績見通しを教えてください

A：1Qは生産抑制が工場収支に影響を与えていた。足元では受注が伸びていることから、2Q以降は生産が増加に転じることで、工場収支は改善する見込みである。新たな受注や、顧客都合で据付が進んでいない案件を売上に転化していくことで当初の業績目標の達成は可能であると考えている

Q：為替の円高進行が業績に与える影響を教えてください

A：通期業績予想の前提為替レートは¥145/米ドル、¥155/ユーロである。足元の為替で推移した場合、為替影響はほぼ無いが、さらに円高が進行した場合はリスクであると考えている

Q：計測機器の受注残について教えてください

A：受注残は昨年度末から増加している。受注高については、中国が市況悪化の影響を受けたものの、主に日本、北米、インドで拡大し、連結でも前年比で増加している

【計測機器事業/地域別の事業環境・見通しについて】

Q：北米需要回復の要因は

A：医薬向けが回復基調。加えて、特定顧客向けの製品が、性能、品質、アフターサービスを含めた総合力が評価され増加したことが要因。
今後は、北米で営業部門の体制強化(医薬向け専門チーム/ファーマディベロップメントチーム)にともなう拡販やサービス拡充と、北米 R & Dセンターを軸に顧客ニーズに対応した製品を提供することで、業績拡大を図る

Q：中国の政府支援策による影響は

A：6月末時点で約1,600件の案件が顕在化しており、この内8割程度がアカデミアである。アカデミア向けの需要は幅広く、主力の液体クロマトグラフや質量分析システムを含め、試験機、表面解析装置、環境機器など多岐に渡る。豊富な製品ラインナップを持つ総合分析計測機器メーカーの強みを活かし、需要を取り込んでいきたいと考えている

Q：中国のヘルスケア市場の見通しについて

A：医薬市場は足元で厳しく推移している。米国から中国への受託製造が減少するなど、回復には時間を要するが、漢方薬を中心に中国国内の成長が今後期待される。臨床市場はOEMパートナー7社との協業により、質量分析システムと消耗品の拡販を図る

Q：中国の通期業績目標（為替除き）について教えてほしい

A：今年度は前年比で一桁半ば%のマイナスを見込んでいる

【航空機器事業について】

Q：業績好調が継続し、事業環境も良好である。足元では需要が拡大しているが、人員増の予定は

A：大幅な人員増は見込んでいない。当事業は選択と集中を進める中、DXを活用した事業の効率化を推進している。生産現場については、従業員の多能工化を図り、現有のリソースを最適なものに再配置を進めている。加えて、一部政府予算を活用した設備更新も予定しており、生産能力の強化も進めることで、需要拡大に対応できると考えている

以上